

## 剣岳、早月尾根 岩日嘎布遠征トレ - ニング

### 2009年5月3日 日曜日

岩日嘎布遠征隊の三回目の合宿は剣岳集中登山となった。私は所用で北方稜線パ - ティに参加できなかつた近藤君と二人で早月尾根往復のパ - ティを組んだ。テント、ザイルと登攀具に食料を近藤君にお願いして炊事具などを私が準備した。

8:00 PM 近藤君を近江八幡駅でピックアップして富山へ

八日市インタ - から滑川インタ - までノンストップで到達。連休の渋滞もなく 11:45PM にはインタ - 近くの墓地横、桜並木の下で Parking。シュラフに収まる。缶ビ - ル一杯で眠りにつく。

### 2009年5月4日 月曜日

4:50 起床



コンビニで朝食のお握りを買う。近藤君は昨夜、八日市インタ - 近くのコンビニで夕食を買った時に朝食も手に入れていた。

6:30A 馬場島

馬場島は今回が三度目のはずだが良く覚えていない。小屋はもっと粗末だったし樹木もこんなに大きくなっていた。1/4世紀の月日は社会を大きく変えてしまう。山荘前の駐車場は満車に近い状態。北方稜線パ - ティの山本さんの車の横に駐車。さっそく準備にかかる。山荘の登山届に記入。二人はトイレを借りる。

7:00A 馬場島出発 高曇り 暖かい



早月尾根が正面に見える。左手には剣尾根のギザギザの岩稜が黒々としたシルエットを鈍色の空に突き出している。久しぶりに身の引き締まる思いを持って出発。近藤君の計らいで先頭に立って私のペースで歩くこととなる。登り口には観音さんがあり、年老いた登山家が一心に祈っていた。剣岳では多くの登山者が帰らぬ人となっている。今回の山行の無事を願って拝んでから尾根末端の急坂に取り掛かった。

#### 7:45 松尾平

片栗の花咲く登山道に慰められながら登る。近藤君が後から付いて来るのだが、自分のペースを作るのに少し苦労する。オーバーペースにならないように注意しながら歩くが、ついつい速くなる。ベンチがある広場で一服。大窓、三の窓、剣本峰が見える。



松尾平(1010m)から池の平山、大窓、小窓の王、三の窓、剣尾根、本峰、

#### 8:38-8:50 1280m 休憩

松尾平には残雪の雪田が残っていた。平を抜けると狭い尾根の登山道となり大きな杉の木が点々と続いている。イワウチワが沢山咲いている。稜線の残雪も出始める。



7:45 松尾平にて休憩



8:38 尾根筋に残雪が増えてきた



9:20 猫又山 2378m が白萩川の対岸に現れた



9:20 元気な近藤君 1470m 付近

9:37-9:50 1560m(1600m の標識のある場所) 休憩

GPS は精度 4m で 1560m を示していたがここには 1600m の標識が取り付けてある。昨今は高度計や GPS を持っている登山者もまま居るのでこれほどのアバウトな表示は問題だと思う。しかし、実害があるわけではないので目くじらを立てることはない。夏服のままでここまで登ってきたが、それでも汗がたっぷり出る暑さだ。



標識 1600m から見た赤谷山 2260m、2269m、白ハゲ 2387.5m(赤ハゲは白ハゲの左肩)、そして大窓に稜線が下る。

剣北方の山々が残雪を着て姿を現してきた。谷筋にはまだたっぷり雪がある。積雪は落ち着いているよう見える。北方稜線隊は天候に恵まれて進んでいることであろう。



早月尾根 1920.7m 標高点あたりを見上げる



9:40 休憩

10:10-10:20 1700m付近で北方稜線パ - ティと出会う。

矢崎も石丸も元気だ。山本さんも若者に負けずに元気に降りてきた。今朝は池の谷乗越のテントサイトから剣本峰を経て下山してきた。9:00の交信をすっかり忘れていて我々が入山しなかったのではないかと気にしていたとのことであった。少し情報交換して別れた。



10:10 1700m付近、北方稜線パ - ティが下山してきた



矢崎、山本、石丸



11:20 1970m付近から剣岳 2999mを見上げる



11:20 猫又山の左に釜谷山 2415mが現れた

天気が良かった印しに皆の顔は真っ赤に日焼けしていた。2年生になった石丸君にとってはこの北方稜線の縦走は良い経験になったと思う。

#### 11:15-11:25 1970m休憩

このあたりは尾根も広く傾斜も緩い。伝蔵小屋が小さく見えてきた。

#### 12:35 伝蔵小屋到着



12:35 伝蔵小屋 2220mに到着



小屋の側に二人用のテントを張った

馬場島から標高差1500mを登ってきた。61歳の私にはなかなか厳しい登りだった。水を作つてたっぷり水分を補給して昼寝を2時間程摑つて疲労回復に努める。早月尾根を下ってきたパ - ティが隣にテントを張つたがどうやら今晚の天気予報が雨とのことで小屋に宿泊することに方針変更したようだ。良く話す連中だったので今晚は安眠できないかなと思っていたからほつとした。

夕食は肉のたっぷり入つたペミカンを入れたハヤシライスと味噌汁。満腹の後はカフェラテも頂いて

6時過ぎにはもうシュラフに入った。ラジオの天気予報では富山地方は午後から雨。しかし、午前中はそう悪くならないよう言っている。早朝の晴天を期待して早々と眠りに着いた。

## 2009年5月5日 火曜日

### 4:00 起床

青空が美しい。朝焼けはさほどでもなかったが晴天の夜明けだ。

朝食はスパゲッティ。昨晚のハヤシライスの残りにミートソースの素を加えて味付け。近藤君の料理は旨い。3日分の食料が一人700円とのことである。行動食は各自が準備するとはいえ、安い。食材もインスタントが豊富な昨今である。米も不洗米があるので準備は楽なようだ。



4:45AM テントサイトから小窓尾根の夜明け



5:26AM 奥大日岳と大日岳の夜明け

### 5:00 出発

雪は良く締まってアイゼンは快調に雪面をグリップする。トレースは乱れたまま堅くなっているので踏まれていない雪面が歩きやすい。小窓尾根の黒々としたシルエットは凄みがある。大日岳の稜線は対照的に朝日に白く輝いて柔軟な感じがする。シャツにフリース一枚で防寒衣を着ずに歩いているが寒くはない。

### 6:00 2614m Peak 休憩

順調に高度を稼いで2614mピーカーで一服。早月尾根はこのあたりから両側が切れて高度感が増していく。南には室堂や立山別山、遠くには薬師岳も真っ白な姿を見せている。空は青々としている。



5:54 早月尾根の雪稜を下る登山者



6:00 2614m ピークで休む近藤



6:03 2614m から早月尾根核心部と剣岳

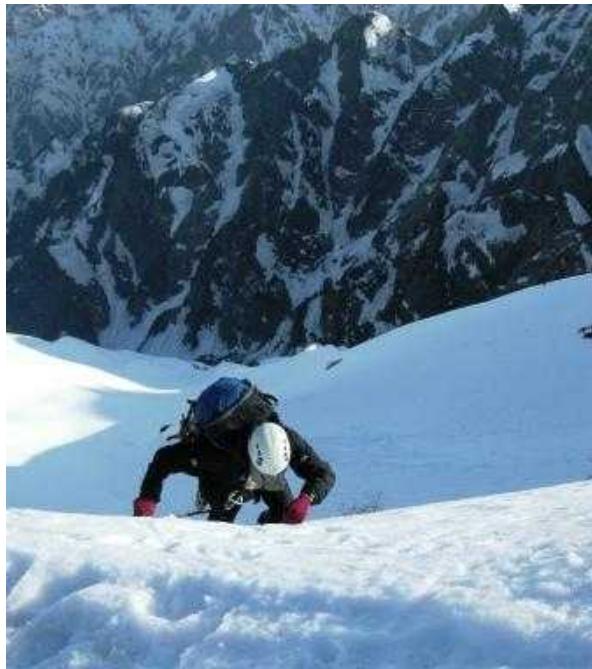
近藤君も私も最近の行いが良いのか、天はこのようなベストな天候を準備してくれた。しかし、遠く南の空は灰色だ。この晴天は永くはなさそうである。



6:12 2614m から伝藏小屋を見下ろす



別山 2880m、剣御前 2776.6m、室堂、薬師岳 2926m、右手前は奥大日岳 2605.9m、大日岳 2498m  
(6:10AM 2614m ピークから)



6:35 2700m付近の雪壁を登る近藤



7:19 氷結したルンゼを抜けて頂上付近の岩稜を行く近藤。奥大日岳(左後方)の向うに鍬崎山2089.7mも見える。

ここから稜線は鋭く切れてくる。2700m付近では高度差30m程度の雪壁がある。登りはノンザイルで登ったが下りはアンザイレンしてOne at a timeで下るのが無難なようだ。続いて鎖場が出てくるがこれは問題なく通過し、山頂の雪稜ア - チを辿ってすぐに絶頂に達した。

### 7:30 剣岳 2999m 頂上

風が少しあるが雲ひとつない青空の下、剣岳の頂上に立った。この前ここに立ったのはいつだったか。25年以上前ではないだろうか。近藤君と握手する。二人で記念写真に収まった。ハツ峰など北方の写真も撮る。



館山別山、立山、浄土岳、薬師岳



毛勝山三山。手前左に下っているのは小窓尾根



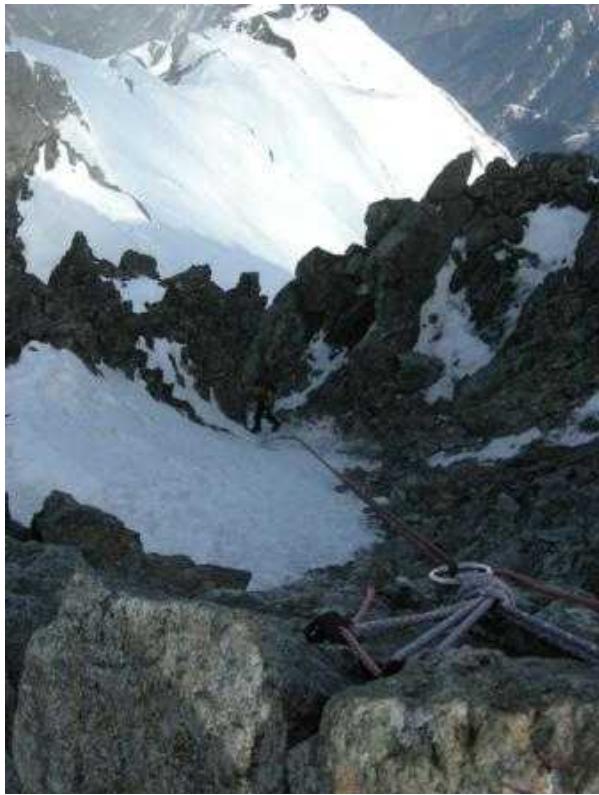
7:30 剣岳山頂にて。祠より 1m ほど高くなっているので今日は 3000m の山頂だ。



南遠方には黒部五郎岳、笠ヶ岳の姿も見えた。



剣山頂からハツ峰を見下ろす。黒部別山も雲の下に姿を現していた。



7:43 頂上直下のルンゼ。先行パーティの下降を待つ



7:56 アブザイレンを終えた近藤。ガスが巻き始めた。

鎖場の下のルンゼはアブザイレンで下降する。先行パ - ティもアブザイレンで下った。薄く堅く張った氷が足場を悪くしているのでアブザイレンが確実だった。しばらく下ると3人が休んでいる場所に出合う。先程ルンゼをアブザイレンで下っていたパ - ティのようだ。その脇の急斜面を雷鳥が横切っていた。2700m付近の雪壁はアンザイレンし、這い松とスノ - バ - のProtectionを取って下る。フリーでも下降できたであろうが下りは慎重に、そしてザイルワ - クの練習もしながらゆっくり行動した。



8:40 2700m付近の雪壁下降



8:43 約30mの下降を終える。



9:29 伝蔵小屋に無事帰着



9:32 登頂成功を祝して

### 9:30 伝蔵小屋テントサイト到着

一旦崩れ始めた天気が少し持ち直し晴れ間も出た。風もないでテントを撤収しそこで昼食のラ - メンを作った。予備日のペミカンを入れ、私の行動食の豚バラの煮込みも入れて豪華なラ - メンが出来た。

### 10:45 撤収、下山開始

しばらくアイゼンを装着したまま下ることにしたが、私のアイゼンは団子になって歩きにくい。夏道が露出した場所でツアッケを引っ掛け一回転して転倒。カメラが飛び出したのでそれを守ろうと完全に側転してしまった。幸いリュックの上に落下したので事なきを得たし、泥まみれにもならずに済んだ。相當に疲れているのも踏ん張れなかった一因だった。緩んだ雪で近藤君もズルっと滑ったりしていた。

### 11:50-12:00 1600m 休憩 アイゼン外す

休憩して、もうよかろうとアイゼンを外す。ワンピッチで600m下降してきた。ちょっと頑張りすぎか。



1600m にて



12:22 尾根に大杉が目立つ



杉の老木いろいろ



### 12:50-13:00 松尾平

ハイカ - が三人体んでいた。彼らはここが目的地のようだ。我々もここで一服。汗が流れる。暖かな二日間だった。

### 13:35 馬場島下山

松尾平から下り始めると山小屋関係者が、道の手入れをしていた。ご苦労様です。土嚢を積んで階段状に道を整備しているがこれはそんなに長持ちしないだろうな。アイゼンで踏んだらすぐに破れてしまうだろう。昨日より沢山片栗の花が咲いた登山道を楽しみながら最後のピッチを下って無事に馬場島に帰着。剣岳の頂上が 2999m で馬場島は 750m。標高差 2250m を一日で下った。頂上は冬、登山口は初夏だった。

Day Camp や観光客で賑わう馬場島を後に早月川を下り、峠を越えて上市の温泉を探す。近代的な「アルプスの湯」を探し当てて汗を流す。入浴料 600 円だった。

### 20:00 近江八幡の焼肉屋にて解散の夕食

近藤君は中ジョッキ二杯、ビ - ルを旨そうに飲んだ。小生、運転のためあと家まで 3km とは言うものの飲酒運転にならないようにお水にしたが、これが旨かった。晩酌がなくても美味しく食事が出来ることもあるのだ。こうして第三回目の合宿も無事終えることが出来た。隊員達も技術的にも体力的にも良くなっているようだ。